

つくづくと思ひ続けることは、なほいかで心と疾く

死にもしにしがなと思ふよりほかの

こともなきを、ただこの一人ある人を

思ふにぞ、いと悲しき。人となして、

しつかりした(ような)

後ろやすからむ妻などに預けてこそ、

婉曲・連体

気が楽だろう

思った

死にも心やすからむとは思ひしか、

推量・終止

過去・已然

寄る辺のない暮らしをするのであろう

いかなる心地してさすらへむずらむと

推量・終止

現在推量・連体

どうしよう

思ふに、なほいと死に難し。「いかがはせ

む。かたちを変へて、世を思ひ離る

意志・連体

試みよう

やとこころみむ。」と語らへば、まだ

意志・終止

ないのである

深くもあらぬなれど、いみじうさくり

打消・連体

断定・已然

おなりになる

もよよと泣きて、「さなり給はば、まろ

あろう

も法師になりてこそあらめ。

意志・已然

何をしよう

まじつて暮らしましょう

何せむにかは世にもまじろは

意志・連体

む。とて、いみじくよよと泣けば、我も

意志・連体

涙をこらえることができないが

えせきあへねど、いみじさに、たはぶれに

打消・已然

言ひなさむとて、「さて鷹飼はでは、

どういたしましょうか

言つた

いかがし給はむずる。」と言ひたれ

意志・連体

完了・已然

ば、やをら立ち走りて、しすゑたる鷹

(止まり木につないでおいた)

存続・連体

放つた

止めることができず

を握り放ちつ。見る人も涙せきあへ

完了・終止

ず、まして、日暮らし悲し。心地におぼゆるやう、

打消・連用

あらそへば思ひにわぶるあまぐもにまづ

悲しいことよ

そる鷹ぞ悲しかりける

詠嘆・連体

とぞ。